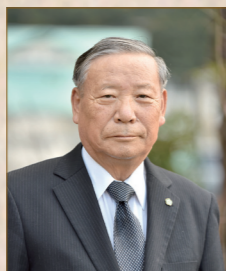




警察功労 元県警部

菊地守男さん きくち・もりお 72 三関



1962年に県警入り。北上署を皮切りに、高速隊、盛岡東署、千厩署などに勤務。花巻署交通事故事件統括係長で退職するまでの41年間のうち、36年間を交通畑で過ごしました。67年からは白バイに乗って交通事故防止に取り組みました。

思い出に残っているのは、79年に東北自動車道で起こった30台以上の玉突き事故。車の運転は事故と隣り合わせであることを、あらためて痛感したそうです。

現在は一関署地域交通安全推進委員や市の地域学校安全指導員としても活躍。受章については「家族の支えがあったからこそ」と感謝しています。

危険業務従事者叙勲

政府は昨年10月10日、第25回危険業務従事者叙勲受章者を発表しました。

非常に危険性の高い業務に精励した人に勲章が授与されました。



警察功労 元県警部

小岩臣彦さん こいわ・とみひこ 72 千厩町



1962年4月に県警巡查となり、一関、花巻、久慈など各署で勤務。2003年に千厩署地域課長代理で退職するまで、41年にわたって地域の治安維持に尽力しました。勤務の半分を激務といわれる刑事課で過ごし、第一線で活躍。盛岡で機動捜査隊にいた頃には、全国で犯罪を繰り返していた窃盗犯を職務質問で検挙するなどの功績を上げました。

受章については「とてもありがたい。上司、先輩、同僚に恵まれた。地域の人にも何回も助けてもらった」と感謝し「在職中はほとんど不在で、家庭は妻に頼りきりだった。恩返しに旅行を楽しんでいる」と笑顔を見せました。



消防功労 元一関市消防監

小野寺克実さん おのでら・かつみ 66 中里



1967年に両磐地区消防組合に採用。以来、高齢者対策室長、千厩、一関両消防署長などを歴任し、市消防本部次長兼予防課長で2009年に退職するまで現場指揮や火災予防に力を尽くしました。

消防士として「終始一貫、市民の命を守っていくこと」を心に勤めたといい「火災で人が亡くなるたびに、やりきれない気持ちになった。自分にながでできるか自問自答を繰り返し、予防の意識を新たに」と振り返りました。今回の受章について「先輩の指導、同僚の協力、後輩の支援のおかげ」と感謝しています。



消防功労 元一関市消防司令長

皆川要三さん みなかわ・ようぞう 68 藤沢町



1966年、東京消防庁に入庁。72年に両磐地区消防組合に採用され、一関、千厩両消防署副署長などを歴任し、2008年一関南消防署長を最後に退職。現場指揮などに力を尽くしました。

「すべての出来事が思い出」と振り返り「今でも当時の火災や災害の現場を通ると苦労したことを思い出す」と話します。消防士としてのモットーは消防学校で学んだ「言い訳しないこと」。組織で任務を遂行するため、自分に言い聞かせていた言葉です。受章について「先輩、同僚、後輩、そして家族に支えられた」と感謝しています。



警察功労 元県警部

神谷和廣さん かみや・かずひろ 72 千厩町



1963年に県警入り。盛岡、一関、千厩、大船渡など各署を回り、41年間、地域と住民の安全に貢献しました。

地域住民から親しまれる「駐在さん」として、話し合いの場に積極的に参加。大東・千厩地域の子供たちには、剣道教室の先生として親しまれました。

「慌ただしい毎日だったが、住民の皆さんに温かく迎えてもらった。地域と一体となって、交通安全教室や見守り活動に取り組めた」と話し、71年の全日空機石衝突事故をはじめ、数々の事件を振り返りました。

妻の美智子さんがほとんどの勤務地に帯同。「受章は妻の支えがあったからこそ」と内助の功に感謝しています。



社会奉仕活動功績 朗読奉仕者

狩原光子さん かりはら・みつこ 77 真柴



1984年から岩手朗読奉仕会(現NPO法人岩手音声訳の会)に所属。視覚障がい者向けの図書の音声訳ボランティアを30年以上も行ってきました。手がけた本は82作品、校正は518作品に及び、小説、雑誌、マンガ、取扱説明書など、あらゆるジャンルを音声訳・校正します。1冊の音声訳に半年を要することも。アクセントや読み間違いがないよう、正確さを心掛けています。利用者からのリクエストには「旬なうちに手元に届くように」と、スピードにも気を使ってきました。

受章にあたり「光栄なこと」と謙虚に話し、「指導してくれた先輩がたや支えてくれる仲間のおかげ」と感謝しています。



防犯功績 一関市防犯協会連絡協議会副会長

那須邦雄さん なす・くにお 80 東山町



1965年4月に東山町防犯協会長坂分会に入会し、50年にわたって地域の防犯活動に寄与しました。

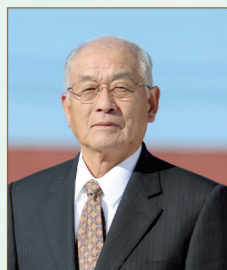
長坂地内の小中学校に分会員が赴き、登校する児童生徒にあいさつをする運動を約15年前から開始。

「地域の大人が見ているという意識を子供たちに持ってほしい」と現在も継続。97年から毎年、市内の新入学児童に防犯ブザーを自費で寄贈する活動も行っています。受章については「身に余る光栄です。会員や地域の皆さんの支えがあるからこそ活動を続けられる。同業者のサポートも大きい」と感謝していました。



消防功労 元一関市消防団分団長

佐々木源輔さん ささき・げんすけ 83 厳美町



父も祖父も消防団員。地域を守る父の姿を見て育ち、1964年に消防団に入団しました。農業の傍ら、38年7カ月にわたって防火防災の取り組みました。印象深いのは、約20年前に小学生のボーイスカウト10数人が栗駒山で遭難したこと。「厳美の全団員が徹夜で捜索した。全員が無事に見つかったときは本当にほっとした」と当時を振り返ります。

退団後は市消防団連合OB会長を務め、後進の育成に尽力。「団員が年々減っている。若い人に入団を呼びかけたい」と団員の確保にも奔走します。受章については「妻のサポートに感謝。家族の理解と支えが力になった」と感謝していました。



自衛隊協力功績 自衛官募集相談員

佐藤寛一さん さとう・かんいち 84 萩荘



農業の傍ら、自衛隊岩手地方協力本部から任命され、1979年から自衛隊募集相談員を務めました。長年にわたり、自衛隊への理解を深める広報活動や自衛官に関心を持つ人への相談業務に力を尽くしました。

50年に警察予備隊に入隊し、北海道で勤務。52年に退役した後も、自衛隊の要請で大阪万博の警備にも当たりました。さらに自衛隊OBでつくる隊友会一関支部長も務めました。

妻の美恵子さんは「農業と自衛隊募集相談員の仕事のどちらも一生懸命務めました。みなさんのおかげです」と感謝しています。



消防功労 元東山町消防団分団長

菅原隆雄さん すがわら・たかお 84 東山町



地域に貢献したいという気持ちから、1956年3月に長坂村消防団に入団。82年から退団する93年3月まで東山町消防団分団長を務め、37年にわたって地域の防火防災に取り組みました。

団では後輩への技術指導に尽力。「地域のために頑張っしてほしい」と後輩へ思いを託します。思い出に残る活動は、2015年8月に熱中症の高齢女性を救助したこと。適切な処置を行って救急が役立つ」と振り返ります。受章については「10のうち7割は妻が支えてくれたおかげ」と家族をねぎらいました。